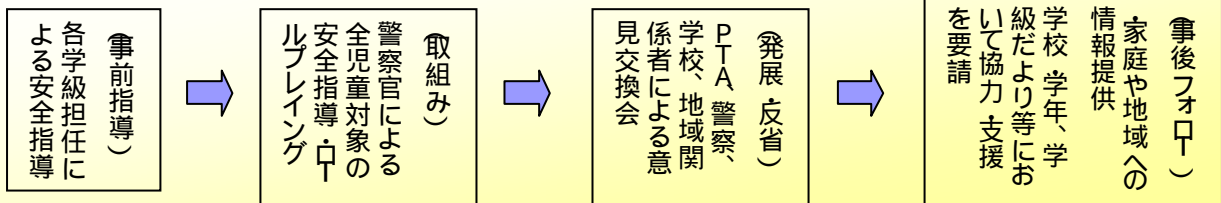


事例17「学級活動と外部講師による全校指導を組み合わせる犯罪被害防止を図る取組」(小学校)

取組のポイント

・本取組は、多発する犯罪から子どもたちを守るために、学校、保護者、地域、警察等関係機関との連携を強化し、子どもたちの危険予知・危機回避能力を高め、健全育成を推進し、非行防止を図る。

実践活動の流れ・発展



教育課程上の位置付け

生活科、総合的な学習の時間、特別活動等における活動

(例:1年生 「学校の周りを歩こう」、「あそびにいこうよ」。2年生 「冒険、発見、町探検」など。

実施までの経緯

知事部局(青少年対策担当)、教育委員会、警察本部及び関係機関が連携しながら、域内の小、中、高等学校2,200校において「セーフティ教室」を設けた。

「セーフティ教室」は、年1回開催され、警察本部職員等が児童生徒に対して犯罪の被害にあわないための方法を教えるとともに、学校、保護者及び地域社会が一体となって子ども達を犯罪から守るための意見交換を行う場としての役割も期待されている。



事前の取組

【学校の既存の安全指導の見直し】

登下校の安全(地域班による登校、交通安全指導等)、校内の安全(避難訓練、安全点検、教育活動中の安全、校外学習や学校行事中の安全等)、地域・家庭での安全(帰宅時間の厳守、公園等での安全な遊び方等)。

【『セーフティ教室』に向けての取組み】

適切な安全指導の立案

- ・犯罪事例の収集:(宅配便を装う、連れ去り、痴漢、刃物での切りつけ、露出等の性的犯罪やストーカー等)
- ・指導のねらい:児童の危険予知、危機回避能力の育成。



防犯教室の開催

1. 各学級担任による安全指導

第5学年の例



最近、多くの子どもが巻き込まれた事件が起きています。どんな事件があったかな？



そうだね。こうした事件の中には、ひどいものもあるけど、防げることもあるよね。例えば、次のような場面では、どんなことが起こると予測できるかな？また、どんな行動をとったらいいんだろうか？



そうだね。危険だと感じたら、まずは大きな声を出すことが大切だね。それでは、警察官の方にくわしく教えてもらいましょう。

ねらい：

・児童の危険予知、危険回避能力の育成

たくさんあるよ……

・子どもが車に連れ込まれたとか、
・町で声をかけられて、ついて行ったら監禁されたとか。



・知らない人に道を聞かれても、車ののったりしないとか、
・暗くなる前に家に帰るとか、
・立入禁止の場所には入らないとか。



(場面設定)

・夕方、小学5年生の男子が一人で家に帰る時
・見通しの悪い角から車が出てきそう
・電灯のない公園に見たことのない人がいる

指導上の注意点

- ・子どもが巻き込まれた事件について分かりやすく説明し、自分たちの身にも起こり得ることだということを理解させる
- ・様々な形態の事件(連れ去り、監禁、出会い系サイト、痴漢等)の事件が起きていることを知らせる程度にする
- ・突然巻き込まれることがあること、また、町で声を掛けられたりしても対処要領を覚えたりしておくことで被害を防げることがあることを伝える
- ・警察官と各教員が互いの指導計画について共通理解を図り、円滑な接続を図る、など。

2 警察官による安全指導

キーワードだけを教え、内容を連想させる(まんが等の活用)



内容を確認させクイズ形式で復唱させる



会場に出席している保護者や地域の方へのメッセージ

キーワードの例

「イカのおすし」

イカ…(知らない人には)ついて行かない
の…車に乗らない
お…「助けて」と大声を上げる
す…すぐ逃げる
し…(被害や犯人の特徴などを)知らせる

・保護者や地域の方にも子どもが危機的場面に遭遇したときの対応を話してもらい、様々な人に守られているということに気付かせる



・キーワードは教室等に掲示し、機会をとらえて確認させ、子どもたちの意識に浸透させる

3 意見交換会

【主な意見】

【家庭から】

・子どもたちの安全を確保するには、家庭、地域、学校が一体となって対応することの必要性を理解してもらう

・家庭でも積極的なパトロールへの参加や、迅速な情報交換を促進するため、電子メールを活用した家庭連絡網の改善などをしてほしい。

・子どもが安心して遊べるような居場所を確保するため、警察官のパトロールを増やしてほしい。

・地域における犯罪の状況などについて、正確で分かりやすい情報がほしい。

【地域から】

・非行防止にかかわる団体等と連携したイベントなどを開催している。

・もっと学校の体験活動などに積極的にかかわって、少しでも多くの子どもたちと顔見知りになることが大事。

事後の取組

【学校での取組み】

不審者侵入を想定した避難訓練の実施。

『子どもを守る家』を子ども達に定着させていく

・『子どもを守る家』マップを作成する。

・『子どもを守る家』と子ども達との交流を図る。

日々の教育課程の中に犯罪から子ども達を守る安全指導を確立する。

保護者、地域の人々が行っているパトロールと学校との連携の強化、など。

【地域での実践】

非行や性被害の発生しやすい場所の見回り。

子育てに困っている家庭へのアドバイス

街頭キャンペーン

奉仕活動や自然体験等の取組の実施、など。

【非行防止のためのシンポジウムの開催】：

【生徒指導連絡会の開催】：生徒指導担当者の研修。

・教科等との関連を図り学校教育活動全体で非行防止教室で学習した内容の定着を図る。



本事例の活用により期待される効果と活用上の留意点

・身体に対する暴力のみならず、言葉による暴力もしてはいけないことについて多くの生徒が理解するようになった。

・生徒が元気に挨拶するようになり、問題行動も減少し、服装や頭髮の違反者も大きく減少するなど、学校全体が落ち着いた明るい雰囲気になった。

・保護者の啓発や地域住民に対する良いアピールになった。

・高校生の実態を踏まえた指導の在り方等について、関係者との一層綿密な打ち合わせ等が必要である。